

## 「御明神・滝沢演習林」

文部科学省により教育関係共同利用拠点認定

— 岩手大学演習林の利用が全国全大学に開放 —

センター長 教授 澤口 勇雄

御明神演習林（明治38年設置、1,040ha）及び滝沢演習林（大正2年設置、281ha）（以下「岩手大学演習林」という。）は、設置以来、いずれも100年を越える長い歴史と伝統を有しており、盛岡市近郊の交通至便な場所にありながら、多様性に富む優れた森林でもあります。これまで、岩手大学農学部が重視する実学教育を行うフィールドとして、岩手大学演習林はその役割を全面的に果たしてきました。

岩手大学が理念に掲げて目指す「地域社会に開かれた大学としての教育研究の成果に基づく地域社会の文化の向上への貢献」に資するために、岩手県を中心に東北地方における森林・林業専門技術者に対する社会人再教育フィールドとして、また、地域の小中学生や一般市民などへの森林環境教育フィールドとして、地域への貢献度を加速的に高めているところです。さらに、ドイツの林業専門大学生の研修を受け入れるなど、岩手大学演習林の資源を生かしたグローバルな対応を開始しました。

この岩手大学演習林の取り組みが文部科学省によって高く評価され、平成28年度から平成32年度まで、「教育関係共同利用拠点」として認定されました。これにより、全国の全ての高等教育機関の学生に対して、岩手大学学生と全く同一な条件での実習利用が可能になりました。演習林関係としては全国で8番目ですが、関東以北の本州では初めての

認定施設であることから、その実習利用は森林科学の分野のみならず、環境・生物系から経済・社会・教育系まで広範囲に期待が高まっています。

共同利用の実習としては、以下を例示しますが、授業内容については柔軟に応じる体勢を取っていますので、お気軽にご相談下さい。

- ①他大学の林学・森林科学系学生に対しての林業生産技術に関する専門教育
- ②他大学・短期大学・高等専門学校などの林学・森林科学系を含む学生に対しての森林環境教育に関する実習教育
- ③他大学・短期大学・高等専門学校などの林学・森林科学系以外の学生に対する自然環境管理教育に関する実習教育
- ④他大学の要望を踏まえたオーダーメイド型実習
- ⑤ロッテンプルグ大学をはじめとする諸外国の高等教育機関との連携強化

施設や共同利用の詳細につきましては、本センターホームページ [<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/>] をご覧下さい。



御明神演習林・滝沢演習林拠点

## FSCを活用した富士大学フィールドワークの実施報告

持続型農業生産技術分野 助教 平田 統一

岩手大学農学部と富士大学は、本年5月に「寒冷フィールドサイエンス教育研究センター（FSC）利用に関する協定書」を交わしました。早速本協定に基づいて、富士大学福祉・ボランティア研究センターが企画したFSCフィールドワークが2回実施されました。

まず7月13日に、滝沢農場でフィールドワークⅠ（教養演習）が実施され、富士大学の1年生8名が参加しました。日帰りで行われ、場内の案内とブルーベリーの収穫作業や食味体験のほか、渡邊助教により岩手県の果樹栽培に関するミニ講義が行われました。



富士大学フィールドワーク(写真撮影佐々木一也)

続いて8月22・23日に、御明神総合施設において1泊2日の日程で、フィールドワークⅡが実施され、富士大学学友会の3、4年生6名が参加しました。

1日目は御明神牧場で、良質の肉を生産するための去勢作業の見学や飼育（哺育）を体験し、平田助教のミニ講義が行われました。夕食は、牧場産の岩手短角牛の焼肉を肴に、開放的な雰囲気の中で、卒業論文のテーマや人生観にまで話が広がりました。

2日目は御明神演習林で森林観察や林道造成の現場を見学した後、澤口教授のミニ講義を受講しました。森林管理の必要性や海外における森林管理法との相違などについて学びました。

富士大学は経済学に特化した大学ですが、FSCフィールドワークは、地域経済の要となる農業や林業に関する体験や知識を得ることができ、富士大学の学生にとってその専門性を深め、地域に役立つ人材となるための得難い機会となると思われます。今年度は試行的な位置付けですが、来年度以降も継続して実施する予定です。

なお、本フィールドワークの一部は、演習林の教育関係共同利用拠点事業の一環として実施されました。

## 韓国ブルーベリー生産者が滝沢農場を視察

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学

岩手大学農学部では約40年前からブルーベリーに関する研究を継続してきた。滝沢農場には全国有数のブルーベリー品種見本園が整備され、これまで東北地域でブルーベリー生産における先導的役割を果たしてきた。

筆者は昨年度、韓国慶尚南道県農業教育センター（ATEC）から2度招聘され、同県のブルーベリー産地で栽培指導とブルーベリーに関する講義を行った。韓国のブルーベリー栽培は日本よりも歴史が浅いにもかかわらず、栽培面積は日本をはるかに超えており、急速に発展している。しかし、栽培面積拡大の勢いに栽培技術が追いついていない部分もある。そこで、ATECでは生産者が海外専門家からブルーベリー栽培技術を学ぶ取り組みを行っている。

その一環として、平成28年8月22日、23日に韓国ブルーベリー生産者とATEC職員、通訳を兼ねた慶尚大学キム教員の総勢18名が岩手県のブルーベリー栽培を視察した。2日間で滝沢農場と盛岡市および遠野市のブルーベリー園を見学した。滝沢農場では、3～4本主枝に仕立てられた樹姿の美しい約30年生ブルーベリー樹や80品種の見本園を見学した。韓国の土

壤は粘土質でブルーベリー栽培には不向きなため、土壤改良に関する質問が多く出された。また、生産者の園地の見学では、剪定に関する質問が多く、樹形形成について熱心に議論していた。さらには、東京都のホテルやデパートに出荷しているという500円玉ほどの大きな冷凍ブルーベリー果実がずらりと並ぶ様子を見て、感嘆の声を上げていた。今回の視察のように、今後も滝沢農場が国内外のブルーベリー生産の発展に貢献できるように、ブルーベリー園の維持と研究に精進していきたい。



「遠野市のブルーベリー園にて」

## 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019(621)6234

E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/

発行責任者／寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 澤口 勇雄  
編集責任者／寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本 信次